

河川伝統技術名称：**霞堤と水防林**

分類：霞堤及び水防林 年代：17世紀代

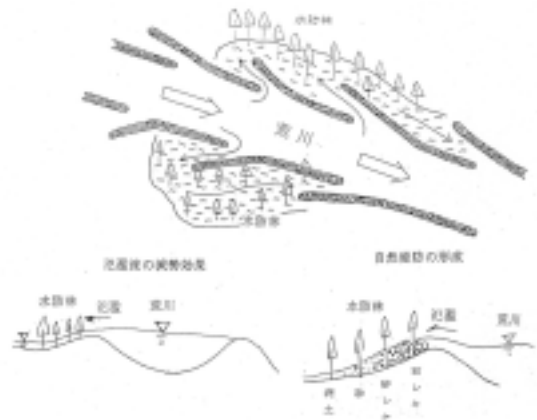
河川名：荒川

都道府県/地先：福島県/福島市



荒川と水防林

(出典：日経コンストラクション '97 11-28)



霞堤および水防林の概念図

(出典：建設省福島工事事務所 資料)



平成10年8月出水の破堤で効果を発揮した水防林

出典：建設省 福島工事事務所資料

(概要)霞堤は、古いものでは江戸時代初頭から築かれた。また、霞堤と合わせて効果を発揮する水防林は自然発生といわれ、その始まりの時期不明であるが、江戸時代から意識的に植林、保全等が行われたといわれる。霞堤と水防林は、上流の地蔵原付近からさくら橋までの約7kmにわたり、両岸に連なる。樹種はアカマツが主体。現在も荒川における治水機能を保持しており、水林公園、民家園、あづま運動公園等の周辺と一体となり、市民の憩いの場となっている。

平成10年8月出水の際、日の倉橋上流右岸が破堤したが、水防林のため被害拡大を押さえる事ができ、改めて水防林の効果が目撃されている。